

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106456		
法人名	(株) ささき		
事業所名	グループホーム みらい (2Fユニット)		
所在地	岡山県岡山市南区妹尾883-1		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3370106456&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成21年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者・ご家族共に外出の希望は多く、理由は気分転換であったり、足腰が弱らないように、と色々です。「みらい」はスーパー、郵便局、公民館等が近くにあるため気軽に出掛ける事ができます。また、運営推進会議のメンバーの方から情報を頂き、公民館行事、地域の祭りや催物に参加させて頂いたりして地域との交流に努めています。
 ・公民館の協力により年1回利用者様の作品展示をさせて頂いています。公民館職員や講座生の方達から感想を頂き、次の展示の改善につなげています。利用者様の中には、自分達の作品を飾られているのを見て、とても喜んで下さる人もいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人は幾つになっても注目されたり晴れがましい場に内心は心踊るものと超高齢の母と暮らす私は何時も思っている。こんな喜びをとても上手に引き出している場面に中々出合えないがこのホームで見付けられた。OOさんは、大きくて壁に掲げた若い頃の写真や自信作品を私に何度も「見て、見て」と誇らしげに見せてくれた。素人の作品と思えない程の「姉さん人形」の作者も恥ずかしそうに自慢してくれた。これらを「みらい通信」では毎回紹介しているし、地域の公民館では作品展示している。館員さん達が「もっと詳しい説明文を」と依頼する程の間柄になっていて、ホーム立ち上げ当時から思うと地域交流の輪が実に大きく花開いている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念から利用者への具体的なケア方針を掲げ、会議等で内容の確認、必要あれば変更の話し合いを行う。	「尊厳と笑顔」「地域交流」「感謝と思いやり」の3本柱の理念は、ここ数年の内に確実に根付いており、素晴らしいホームに成長している姿を今日、見る事が出来た。理念が日々の業務の中に定着しつつあると見た。	今以上の理念の共有と実践の為に、職員間から提案された具体的な小目標を短期間で確実に評価し合い、次のステップに踏み出すといった家庭を大切にしてみたい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、公民館、ふれあいセンターの催物等に出掛けている。地域のボランティアの訪問もよくある。	運営推進会議が軸となり、公民館活動への参加・福寿会を始めとする数多くのボランティアの訪問・地域の祭り等の行事への参加・老人クラブからのお誘い等、数年前と比べて大きく地域交流が広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館との交流が深まったことから、公民館のボランティアグループの人達とグループホームの勉強会の場を持つことができた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告を行うと共に、参加メンバーより意見、助言、情報等をもらっている。	年6回の会議は地域の民生委員や老人クラブ・地域包括・利用者及び家族の参加を得て実施。意見交換や感想・要望・地域住民からの提案やお誘い等、活発な活動状況が詳しい記録からよく伺い知る事が出来る。	地域の方々の深い理解と協力を得て、意義のある運営推進会議が実施されているが、更にグループホームの生活の実態をより知って貰う為の取り組みを考え、ステップアップを図りたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議参加をきっかけに包括支援センター職員との連絡が取り合えるようになった。	地域包括支援センターの職員の働き掛けにより、在宅のお年寄りがホームでのしめ縄作りに参加されたり、学区内の3つのグループホームの交流の為に協力関係を築こうとする等、良い方向性が表れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルで大体は周知、理解しているが、研修の機会を持ち、より深く理解・納得できるようにしたい。	街中のホームであるが玄関や入口の施錠はない。身体拘束に該当する事例も今は全くないが、マニュアルで研修したり、日常のケアを振り返り、近いものは無いか話し合っている。外部研修もチャンスを作って受けるつもり。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を受け、理解浸透を共有・認識を図っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修に参加の機会を持つように努めたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に当たって契約・重要事項説明書等を説明理解していただき、改定等があった場合、新しい文書を渡す等して説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に送る家族へのお手紙に意見書も同封している。年に1回家族へ依頼するアンケート等も参考にし、職員会議や運営推進会議にて話し合っている。	七夕祭りや敬老会等、家族参加の行事の時、運営推進会議時、日頃の面会での話し合い等で、家族の意見を聞いている。家族は「外出をもっと多く」「料理にこんなものを」等、意見をよく出している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を1～2ヶ月1回行っている。代表者との個人面談を年に2回行っている。 (4月・9月頃)	定期的な会議や日常の話し合いの中で意見や提案を出し合っている他に、代表者と職員が個別に話し合うチャンスを作っている。代表者と管理者が2ヶ月毎に会議を持ち、下からの声を届ける事も始めたばかりだ。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個人面談で状況を把握すると共に今後は2ヶ月に1回管理者と代表者とのミーティングを開くことになっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら技術や知識を身につけて行く事を支援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症G・H協会の会員になり、研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に相談内容を把握し、本人には数回会えるようにし、状態、気持ちの理解に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に、本人や家族の思い等を確認する。又、出来る限りサービス開始以前の事柄を多く聞き出すように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを聞き、支援内容について提案や説明を行う。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事の準備、後片付けを協力してもらおう等、役割づくりに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の出来事や生活の様子を家族に報告し、家族の思いを受け止めると共に利用者、職員の思いも伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしている人に対しては、新聞や写真を送るようにしている。馴染みの場所には計画的に出掛ける時もある。	ある家族が昔の写真を引き伸ばして大きくし、敬老会でその人のかつての様子を写真を見せながら発表したのをきっかけに、入居前の利用者の存在をクローズアップさせている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等で孤立しないで過ごせるように努めている。利用者同士気が合わない事があり、間に職員が入る事で穏やかに過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた場合は、支援内容等情報提供を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、思いを聞き出している。意思疎通が困難な利用者にはご家族より思いを聞いている。	玄関前の花活けは00さんの役割。活ける為に花屋に出掛けたり店員に持って来て貰い自分で選んでいる。少し前まで長い期間ここでの生活が困難であった00さんだが、今日のはもやしのヒゲ取りに満足そう。「役割を」というケアプランが上手くいっている。	思いや意向の把握はとても良く出来ていると思う。次の段階への取り組みとして、如何したら今以上に効果的に「自分が注目されている満足感」を一人ひとり感じて貰えるか、一つでも多く見付けたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から情報を得ている。また、以前サービスを利用していた事業所から情報を得る事もある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、日頃の様子と変化には早目に気付く様に職員間で申し送りをしている。有する力においては出来そうな事への声かけを努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員と話し合い、モニタリングやカンファレンスを行っている。家族や訪問看護との話し合いも行う。	より良いケア目指してよく話し合い、モニタリングを行っている様子は、介護支援計画書や介護支援経過書、その他の記録からよく理解出来る。今年春から始めた訪問看護師との話し合いや勉強会も効果的と思う。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を残し、気になる事や変化等においては細かく記録するように努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数(あるいは1人)での外出に出掛けたり、家族との外泊や外食もされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院に出掛ける人もいるが、定期的に散髪に来てもらっている。花屋さんも定期的に来てくれるので、好きな花を選ぶ事ができる。訪問歯科で歯の治療も希望により受けており、出掛けられない人への支援も考えている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医が遠方で家族の協力が得られない場合は、かかりつけ医を代わって頂く場合もある。	入居前からの掛かり付け医との関係も大切にしながら受診支援をしている。通院介助は職員が多いが、家族が付き添う事もある。重度の利用者の場合は訪問診療もお願い出来る等、良い協力が得られている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回は訪問看護による健康チェックがあり、事前に利用者の情報を伝えておく。また、看護師からの気づき、助言等も記録に残されている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の情報を医療機関に提供し、家族とも回復状況等情報を交換している。退院が近づくと訪問看護さんと共に本人の状況等把握している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、主治医、訪問看護師、介護職員が連携を取り、支援に取り組んでいる。	利用者が重度化した場合における対応に係る指針も作成し、必要なケースでは同意書を家族から貰っている。今までターミナルケアに近い状況も経験しているので、職員間では十分討議し、支援していく方向で研修したり問題点を考え直したりしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師とのミーティングにより、急変時の対応の訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。消火器の使い方の訓練も実施した。消防署の立ち会いの下での夜間出火を想定した訓練を行った。	春と秋の年2回、火災(特に夜間)を想定した避難訓練を実施している。2階ではおんぶラックで人を背負って階段を降りる等の訓練をしているし、隣人4軒にはボタン通報で駆けつけて貰えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誘導や動作の声かけをして介護を行うようにしている。周囲の人の目が気になるような介護については、本人を傷つけないように配慮している。本人の意志を出来る限り尊重するように努めている。	このホームの理念の大きな柱として「尊重とプライバシーの確保」が挙げられ、日常的に「どうでしょうか。どちらにしましょうか」と本人の意志を尊重するあたり前の働きかけを「これで良いか」常に振り返っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションは何をしたいか利用者に聞いて決める事もある。朝食については、パン食等希望に合わせている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は職員の勤務上、夕食後から夜は難しいため日中に行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の散髪の利用ができる。利用者によっては日によりお化粧をされる事もあるので上手に出来るように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事をするように心掛けています。食事の準備、後片付けも一緒に行うよう工夫している。	初代「台所のお母さん」は今は椅子でにこにこしているが、ちゃんと後継ぎの人がいた。食事の手伝いや後片付けが役割である。みんなの希望も取り入れた食事は何よりの楽しみ。静かに食べたい人は職員と居室で頂いています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量を把握している。水分量の気になる利用者については、細かい水分量の記録を残すようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの出来ない人には職員が行い、一人ひとりの力に応じた支援で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を支援し、自力での排泄困難な人には声掛けや誘導などを行っている。	記号も使って一目で見易くした排泄チェック表を作り、職員が状況をよく共有し、それぞれに適切な支援をしている。可能な限り自分の力での排泄を心掛け、声掛けは食事前一斉に、又個別には小さな声でしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心掛け、軽体操をしたり、また歩ける利用者には散歩等の機会を作っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務時間の都合があるため時間帯は決めている。入浴中は、ゆっくりとコミュニケーションをとっている。	午後の時間帯に週2～3回のペースで入浴。風呂・脱衣所は南側で明るく暖かくて気持ち良さそう。歌が出たり昔話等もして、入浴もじっくり二人きりで寛げるチャンスと楽しんでいるのが良い。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をしたい人はしてもらおう。必要ない人は自由に過ごしてもらっている。お昼寝をしないと外食までに眠ってしまう人は声かけで休んでもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の作用、副作用等の説明書を整理している。薬の飲み忘れがないように職員が管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などから本人の得意分野を見つけ、力を発揮できる場面を作っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画を立てての外出は、家族やボランティアの協力を得て行っている。毎日の買い物、ゴミ捨て、散歩等は希望者と出掛けている。	行事での外出の他、郵便局へたよりを、スーパーに買い物、ちょっと散歩等を、街中で歩いて用が足せる魅力をしっかり活用している。地域主催のウォーキング大会に参加した二人は「疲れた!」と言いながら、嬉しそう。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かりホームで管理している。自分で買物をしたい人には、お財布に小額のお金を用意して支払ってもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出す支援をしている。電話・手紙は希望があれば支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差し良く、ホーム内は明るい。壁には季節に合った飾りや利用者の作品を飾っている。	このホーム程、共用空間から「利用者の輝いていた頃の姿・力一杯頑張った数々の作品・行事でお出かけの様子・職員のメッセージ」等が伝わってくる所は少ない。訪問する人も楽しいし、会話のきっかけ作りが出来て良い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寛いでTVを見て過ごせるようにソファを置いている。 和室は洗濯物を畳む場所になることが多い。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物を持ち込まれている。居室でTVを見たい人はテレビをラジオを聞きたい人はラジオヲ聞く等、居心地良く過ごせるようにして頂いている。	家族が目印にと掛けてくれた暖簾を始めとして持ち込まれた家具や飾り物・写真等で、その人なりの居室になっている。ベッドや畳・カーペット等も、それぞれの状況に合わせて持ち込むようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは個人の居室が分かるように工夫している。また、出口には鈴が鳴り、来客があっても、誰かが外に出ようとしても気付く様になっている。		